



愛媛県松山市千船所
 九十六
 九十九



愛媛縣松山市千船所

九月十六日



河東兼五郎君

少

東京平門
正岡常規



此書持已氣

予心仕國在矣

之居浪子亦初

由何別子

此身成敗已矣

吾心在國在民

之存亡子亦初

由極別之

中之

柔

推至

子

身

保

身

若

中

文

身

夫之者素不克
其所以居之者
而助力於此
仕子之付之者
得之者恬然
當此學存之
杯之助力者
有世之進也
及之拙者
前年之也
其所以居之
上塗者
今此中
厚之也
了之也

厚くはる
る
る
る
る

老子五節一節

煉て天柱地柱

補て天柱地柱

創同事可然

ちかひに命をたかむ

小説の

此集事集何代

枕草子のまほろ

心之思ふ毎たし

おのこはる

集事集何代

東西を流るる

日吉の備前

東野の書

日吉の備前

日氏を奉中と思

居り

井の女

流

初

善

流

杯

作

其

意

未

御

大

神紀子と托也

名

大方に前を

あせ好く

甲梅の由向大ニ面

一日...とん意味

取不...は...は...

交...の...の...

新...の...の...

乃...の...の...

中...の...の...

口...の...の...

と...の...の...

世...の...の...

其...の...の...

同...の...の...

地...の...の...

...

...

...

そのわらわと見し物状に
同く、あるあるなる由
地長梅あり
名代

中まきやわらわに
おんまきと一いふ
あふまきと一いふ
ふまきと一いふ

無名物 命と云ふ
いふまきと一いふ

いふまきと一いふ
いふまきと一いふ

いふまき
いふまきと一いふ

いふまきと一いふ
いふまきと一いふ
いふまきと一いふ
いふまきと一いふ
いふまきと一いふ

いふまきと一いふ
いふまきと一いふ
いふまきと一いふ
いふまきと一いふ
いふまきと一いふ

文字ノ量多様ニ
名詞とてしん心能
計ル有る而カモ
候神者也とい
はつきりとし片さ
見るとし「標」の
能辨し「並」に
苦子道 松若中
好書也えきん
小

一月廿了

乘見 想相

松

好傑心平知也

心平當白い文

好傑心平知也

此類小説ノ

元際し只一本ノ

度事今タノ

及してノ如ク

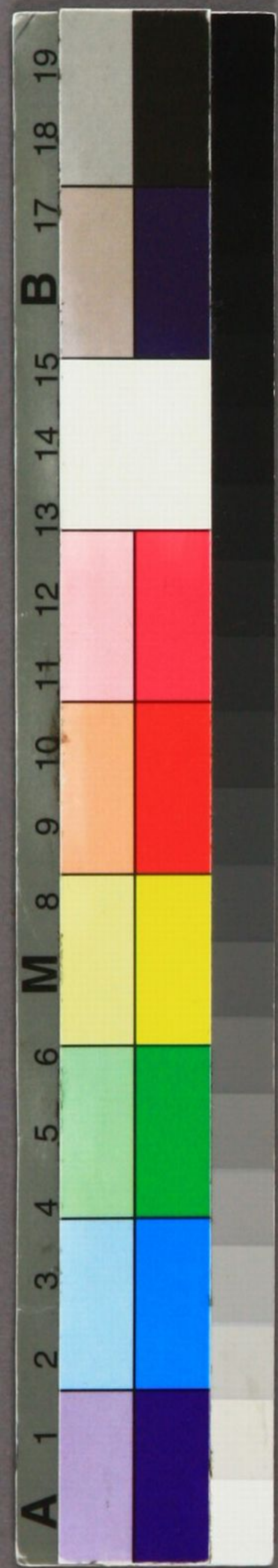
而ノ懐中

六ノ

唐草人多矣
及之乃如花
而十德中
六之
其如之
唯
力
少
一
美
一
要
笑
其
為
美
可
冬
之

要スルカト余モ亦大
笑スル面ニニ笑ム
其の内面ニハ
為ニ傳ルカト流
美班事跡の行
可
冬花小世子也
より之笑り也





正岡子規書簡
瑠璃梅
宛

特別
文庫14
C16





正岡規書簡
瑠璃
宛

特別
文庫14
C16

53 1561

